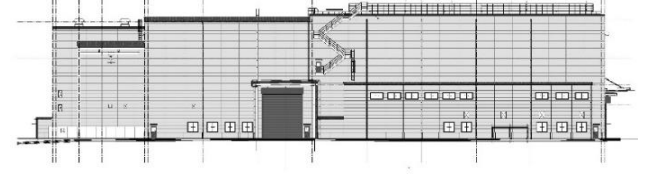


# CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	川崎重工株式会社神戸工場 組立	階数	地上2F
建設地	兵庫県神戸市中央区	構造	S造
用途地域	工業専用地域、準工業地域、準防火	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2021年12月20日
敷地面積	360,570 m <sup>2</sup>	作成者	株鴻池組 溜池 博樹
建築面積	4,688 m <sup>2</sup>	確認日	2021年12月20日
延床面積	4,562 m <sup>2</sup>	確認者	株鴻池組 溜池 博樹



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 ★★★★★ 3.0	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 ★★★★★ 3.0 Q-2/2.4 信頼性 ★★★★ 2.4	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 ★★★★★ 3.0
配慮の概要	配慮の概要	配慮の概要
0	0	0
その他の配慮事項		
0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)**  
**川崎重工業株式会社神戸工場 組立3工場**

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.30</b>			<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.6</b>	0.15	-	-	<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	<b>3.0</b>	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	<b>3.0</b>	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
1.3 吸音						<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.7</b>	0.35	-	-	<b>2.7</b>
2.1 室温制御						<b>3.3</b>	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	<b>3.0</b>	-	
2 外皮性能						3.0	0.25	<b>3.0</b>	-	
3 ゾーン別制御性		用途を勘案してゾーニングしており、ゾーン別に冷暖房の切り替え可				4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.3</b>	0.25	-	-	<b>3.3</b>
3.1 昼光利用						<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 昼光率		昼光率:2.01				4.0	0.60	<b>3.0</b>	-	
2 方位別開口						-	-	<b>3.0</b>	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	<b>3.0</b>	-	
3.2 グレア対策						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光制御						3.0	1.00	<b>3.0</b>	-	
3.3 照度		全般照明:平均照度750lx				<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>4.5</b>	0.25	-	-	<b>4.5</b>
4.1 発生源対策						<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		90%以上F☆☆☆☆を採用予定				<b>5.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
4.2 換気						<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 換気量		必要換気量の1.5倍				<b>5.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	<b>3.0</b>	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	<b>3.0</b>	-	
4.3 運用管理						<b>4.5</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		定期的に計測するための管理マニュアルを整備している				4.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		建物内を禁煙としている				5.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.4</b>	0.40	-	-	<b>3.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.6</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		2階現場事務室は6.1㎡/人を確保				5.0	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33	<b>3.0</b>	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						3.0	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 リフレッシュスペース						2.0	0.33	-	-	
3 内装計画		吸音用にグラスウールボードを選定した。内観パースを作成した				4.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		掃除用具入れにスロップシンクを設置した				4.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:AGP-VA(B)40年以上 排水:VP(B)40年以上				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>2.4</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 空間のゆとり			<b>3.2</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		2.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.068	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
3.3 設備の更新性			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.2</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.1</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.82	<b>2.9</b>	0.50	-	-	<b>2.9</b>
4 効率的運用			<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>4.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	エネルギー消費量の目標値と定期的な整備性能検証を計画。	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
1 水資源保護			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>3.2</b>	0.60	-	-	<b>3.2</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材が容易に分別可能(LGS+GB-R)	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.7</b>	0.20	-	-	<b>3.7</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率=91%	<b>3.3</b>	0.33	-	-	<b>3.3</b>
2 地域環境への配慮			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車、駐輪スペースの確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの項目の過半を満たし、広告物照明を設置しない	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	